京城新報

●陰暦 十一月十七日
發行兼編輯人 山下英爾 印刷人
京城西署西小門通 發行所 京城新報社 電話六六三

組合教會の神學に就て(下)

網島佳吉

本篇は目下當地へ傳道事業視察の爲め來られ居る神學者綱島佳吉師が先般大阪にて開會せる組合教會總會信徒大會に於て爲したる演説なり

更に余は斷言せんと欲す神學は作るべきものに非ずして生まるべきものなりと、看よ古來如何なる宗教家が初より一定の神學を組織し之を標榜して起ちし者かある、ポーロ神學の如きも彼れ自身が神學を組織せんと欲して出來上りたるものにあらず寧ろ後世の人が之を組織したるに過ぎざるなり、オーゴスチン、ルーテル、カルヴヰン、シユライエルマツヘルの如き亦然り彼等は只深甚痛切なる宗教的實驗を有し之より發する活動によりて宗教家たるの本分を盡したる者其神學の如きは此實驗と活動との自然の結果として生れ出でたる者に過ぎず一個の神學を組織するには非凡なる學識と組織的能力とを要するものにして是れ決して容易の業にあらず少くとも彼のプシヤル程の人物が幾多紀年にあらざれば到底之を望むべからず英國會衆派教會のプリンスを稱められしデール博士は其説教中神學の建設に就きて余の將さに言はんと欲する所を言明せり其一節に曰く

新に神學を建設するは今日の急務なり之を爲すの道は他なし教會の宗教的信念旺盛にして聖徒の熱誠と非凡の學識とが相一致して協力するに在るのみ微弱にして劣等なる宗教的生活より生れたる神學は只に存在の價値なきのみならず又自らを保存すること能はざるべし吾人は大神學者の出現を望むに先ち先づ善良なる基督教徒たらざるべからず。

偉大なる神學の起るに先ち善良なるクリスチヤンの輩出せざるべからずとは眞に吾人の意を得たるものなり吾人は組合教會の神學の出でんことよりも寧ろ活ける信仰の勃興せんことを望む者なり神を信じ基督を信じ罪の赦を信じ永遠の生命を信ず之れ卽ち實驗的信仰なり此實驗的信仰と活ける人格との二者は我黨の生命にして此生命の自然の發現が他日偉大なる神學の建設となるやも知れざるなり、吾人にして犧牲獻身の大精神を以て神國を我日本に建設するの重任を負ふて起たば宜しく主キリストの信仰箇條を以て我が信仰箇條とせざるべからず即ち自ら同胞人類の僕なりとの覺悟を以て神を愛し人を愛するの活動に一身を打込まざるべからず、之れ豈に吾黨の根本主義にあらずや、諸君、我黨は果して如何なるものに支配せられつゝありや、我黨のルーリング、アイデアスは果して何ぞや、單に抽象的なる神を敬ふのみにて具體的なる同胞を愛せずんば宗教家たるの價値何處にか存する眞に人の僕となるの覺悟にして確立せんか偉大なる神學の要素は其時初めて其芽を出すべきなり、ジヨナサン、エドワードは新英洲神學の開祖にして其著「意志論」の如きは米人によりて書かれたる最大の著書なりと稱せらるゝもの實に彼れエドワードは十八世紀に於ける最高の宗教的天才なりき而かも此偉大なる神學者は一方に於て偉大なる宗教的活動の人にてありき千七百四十年に於ける新英洲の大リバイバルの如きエドワードは其の主動者にして又彼れが米國士人の導道の爲めに盡せる活動の如きは實に驚くべきものなりき活動的宗教家たる彼にして初めて能く偉大なる神學の組織者たるを得たるなり余は最近のヒツバート、ジヨーナル誌上に於てマツキフォード博士の「神の内在と基督教徒の目的」てふ一論文を讀むに其中左の一節あり曰く

吾人の神學は吾人の生涯の大目的に比すれば比較的に些々たる問題たるなり、若夫れ雄大にして高潔なる大目的に全力を傾注せんか吾人が如何に信ずべきかの問題の如きは必竟細事たるに過ぎざるなりと是れ實に吾人の味ふべき一言にあらずや眞に神を畏れ人を愛し十字架を負ふて神國の擴張を期して進む玆に基督教の神學はあるなり、生命を離れたる死せる神學は吾人の一顧をも値せざるものなり吾人は寧ろ斯かる神學の出で來らざらんことを希ふ活ける信仰の伴はざる神學は畢竟無益の長物にして人道の問題も傳道の問題も斷じて之によりて解釋せらるべきにあらず余は我組合教會が未だかゝる神學によりて束縛せられざるを以て神の恩寵として感謝するものなり是れ我黨の神學なりなどゝ主張するものなきは偶ま以て我黨の進歩的精神と宗教的生命の旺盛なるを證するものにあらずして何ぞや、希くば益々此の自由と進歩との大主義の上に立ちて宗教的生命の發現に努め以て其中より自然に偉大なる神學の生れ出でんことを期せしめるよ。

漢城だより(二)

栗櫟生

井上は歸朝し、三浦梧樓來る、而も陸軍中將の正服を着し、威容堂々として乘込みぬ、未だ謁見せざるに宮廷は縦慄せり、陸軍中將の公使は異例也、其活動如何あらむと韓廷も外交團も囑目疾視せり、然れども三浦は微動だもせず、公使館は靜寂にして恰も禪寺の如し、玆に於て宮廷は安堵し、外交團は稍呆氣に取られたる感ありき、世人も亦た意外に感じたりき、然れども何となく殺氣は天に漲れるが如く思はれたり、當時の宮内府顧問たる竹橋騷動の張本人岡本柳之助の邸には志士の出入頻繁也、熊本の志士田中賢道は壯漢を率て東京館に滯宿せり、然るに一方にはウエバーと閔妃の聯合運動は此間に熟し、機會を俟て發せんとするものゝ如し、陰鬱なる醒氣は漢城の天を蔽へり、當時の光景は何となく時的にして、現時の俗化したる漢城とは月鼈も啻ならず候。

明治廿八年十月八日の未明、北漢山下に砲聲轟けり、すは何事ぞ、景福宮に變あり、大院君入闕せりと、余は蹶を蹴つて齋藤邸に行く、修一郎君亦た應接に離れんとす、共に倭城臺に登る、星亭君亦た來る、齋藤君曰く、咄亂暴極る、星君曰く下手芝居也と、此語何の意味たるを知らず、知ると雖も説明せざるをよしとす、此事件に就て日本側にて與り知らざるもの、齋藤、星、大庭寛一、時の京城領事内田定槌等なりき。

此際最も可笑かりしは、露公使ウエバー氏の態度は噴飯以上に價し候、三浦觀樹將軍は公使館内寢床に横はりて、沈默何事も知らざるものゝ如し、ウエバー氏事變を耳にするや、烈火の如く憤り、轎輿を急がして三浦公使を訪ふ、三浦は病氣の故を以て面會を謝絶す、ウエバー氏病褥にて差支なしとて、押て面會を求む、三浦はさらば失敬なれども、横臥しつゝ面せんと、ウ氏憤然室に躍り入る、曰く景福宮の變事、貴國人の爲す所也と大に詰る、三浦曰く日本人の爲せし所とは何に依りて認められしやと、ウ氏曰く洋服を着たるもの續々入闕せりさ、三浦曰く洋服を纏ふもの日本人のみならむや、或は西洋人なるやも知るべからず、探査然るべしとて平然たり、ウ氏語の出る所を知らず、總身を震ひ憤々として去る、よくよく悔しかりしものと存候。

往事夢の如し、今やウエーバ氏は巴爾幹半島にあり、觀樹將軍は禪味に入り、楠瀨將軍は樺太にあり、杉村濬、星亭の兩氏は逝去し、齋藤修一郎氏は逆境に沈淪し、内田定槌氏は公使となり、大庭寛一氏は四五年前愛媛縣知事たりしが、今は何處にあるか知らず、岡本柳之助氏は當地に來られしやの風説有之候、果して眞乎。

仁川貿易概況

自七月至九月

四十年第三季貿易概況(續) 仁川商業會議所調査

本季の貿易に於て注意すべきは前年同季に比し貨物の輸出入に於て百二十一萬五千餘圓を増加したること及び歐米諸國の輸入の著しく増加せしこと是れなり

貨物の輸出入が著しく増加せしことは韓國開發の大勢に促されたるものと認むるの外なしと雖も歐米諸國の輸入が斯く增進するに至りたるは蓋し本季に入り初めて見るところの現象なりとす今試みに數年の以前に溯り歐米及清國よりの輸入數量を左に對比せん

期別	英國	米國	露國	清國
卅八年 一期	—	六九〇、四七四	一二〇、六一八	一、七三四、一八〇
二期	八三、六八二	三九、五八八	—	一、四六九、九〇五
三期	一〇三、九三八	二七	—	二、一四三、九一九
四期	九六、六六四	—	—	七四七、五四九
卅九年 一期	—	一六八、四七〇	—	七一六、六三四
二期	一四、三二五	—	—	八四六、五四〇
三期	三一、九三四	六九四、七九二	—	八九九、七二〇
四期	三三三	一、一五〇、三九六	—	九九八、六五三
四十年 一期	九五、七〇二	三三、三五三	八〇	一、一二三、四八三
二期	六三、六八三	三九、五八八	—	一、六三五、三三三

期別	英國	米國	獨乙	清國
三期	一、〇九二、八九一	一七七、九二五	三六、六二四	七、四九六

期別	露國	諾威	其他	清國
三期	二、〇九九	二、三二九	七、三七三	六〇五、六九八

柔道の話

柔道の起原に就きては種々の説がありますが兎に角明末に日本への亡命客陳元贇と云ふものがあつて此人に依つて柔道が傳はられたと云ふ説が一番有力のやうであります尤も其以前、我國に於て例い柔道と云ふ名は無くとも其實があつたことは爭はれない事實で則ち昔の武士の組打なるもの是が經驗上自分の力のみならず先方の力を利用して倒すと云ふことの必要があつたので此組打に就いて一種の術が行はれて居つたのである畢竟相撲の術と此組打の法とは陳の渡來以前から我國に行はれて居つて將來に於ける柔道の源となつてゐるのであります陳の歸化したのは萬治年間、則ち徳川の三代目頃で丁度武術が最も發達して居つた時代であるから陳の渡來は我が柔道なるものに一新起原を啓いたことは疑ふ迄もなく、でやわら體術等の名稱が起つてから僅に最近二百年内外の事である、それより引續いて徳川の終迄幕府では大に此の柔道と云ふものを奬勵し、又各藩でも大に奬勵したもので爲に柔道は非常に盛となり斯道の名人も澤山輩出して苟も武士たるものは劍道と共に必ず又此の柔道の技に達しなければ人中へ顏出しが出來ぬ位であつたのです然るに維新改革後は一時衰退をして、柔術家などは相撲取と同じく一種の藝人と見做されて甚しきに至つては大道で此術を演じて錢を請ふものさへあつたくらゐでしたけれど日本特有の技術として彼の西洋の科學的の眼から研究して見ると身心の鍛錬法として無上の良術であると云ふことが分つて其處で此理論と技術とを一致さして始めて一の立派な柔道を開かれたのは卽ち今の弘道館主嘉納治五郎氏であります、最初氏が道場を開かれた時分は殆んど一人の習ひに來るものもなかつたそうですけれども、今日では御承知の如く非常に盛んで其流は全國到る所に瀰ち各所に門戸を張つて門下生が其術を傳ゐて居り海外迄も其術が流行するやうなことになつたのであります、で、氏は斯道に於ける中興の祖であつて弘道館流が總ての流派を代表してゐる譯である今左に昔から行はれた各地の柔道の流派を擧て見ると竹内流、堤寶山流、荒木流、夢想流、三浦流、福野流、制剛流、梶原流、關口流、澁川流、起倒流、揚心流、灌心流、扱心流、良移心流、爲勢自得天眞流、自剛天眞流、吉岡流、爲我流、双水執流、[illegible]

弘道館に於ける柔道の技に就き分類法を御話すれば先づ斯道の技を大別して投技、固技の二種とし而して投技を別して、手技、腰技、足技、捨身技とし固技を區別して首固、手固、足固、體固の四種とし又は抑、絞道の三種に分つたのである

第一、投技

(一)手技 浮落、背負投、掬投、肩車、大外落、背負落

(二)腰技 浮腰、掃腰、釣込腰、大腰、腰車、後腰、跳腰、移腰

(三)足技 送足掃、釣込足、內股、膝車、大外刈、出足掃、小内刈・足車、小外刈、大内刈、谷落、山嵐

(四)眞捨身投 巴投、裏投、釣落、隅返

(五)横捨身投 横掛、横車、浮技、抱分、卷込、横分、横落

第二 固技

(一)手固 逆指、小手挫、腕緘、腕挫

(二)足固 足挫、足詰、足緘

(三)體固 胴絞、抑込

(四)首固 脊挫、喉絞

又右の抑込を細別して

(イ)四方固―上四方、縱四方、横四方

(ロ)袈裟固―本袈裟、崩袈裟

(ハ)浮固 (ニ)肩固 とし

(イ)十字絞―並十字、逆十字、片十字

(ロ)裸絞 (ハ)突込絞 (ニ)兩手絞

(ホ)片手絞 (ヘ)送襟 (ト)袖車

文苑

冬十五句 金子雨翠

今朝冬の門に入り來る人の息
降り埋む落葉 忙しや暮の雨
時雨るゝや大火のあとの薄烟
時雨るゝ鵜群れ居る寺の屋根
貧に處す吾れ美酒あり小夜時雨
五戸十戸ふもとの村や時雨晃
江に沿ふて一里時雨るゝ御苑哉
僕等は寢て靜かなり小夜時雨
時雨るゝや炊烟揚がる谷の家
時雨晴て簑に日あたる戸口哉
踏み迷ふ二タ筋道や夕時雨
時雨るゝや海に望みし岩の松
時雨るゝや宿なき村の小家勝
三味線を抱へて門に時雨けり
憂と鳴る斧の光りや冬木立

小説 紅のみだれ(三十三)

永井櫻園

「話と云ふのは余の事ぢやないけれど、縫さんは最負になつて居た、あの山田とか云ふ人の事が新聞に出て來なくなつてから、一昨日も昨夜もスツカリ語物の調子が違つて、傍の人には知れないだらうけれど、私の耳には全で外の人が語つてるかと思ふほど拙く聞ゐたのよ、そりや私だつて此年齡になるまでには、種々な目に會つて來てるから、寄席に出た端に最負にして呉れる客は嬉しくて忘れられないものでもあるし、



殊にあの人なんかは男振は好し、上品ではある、ヤレ後幕だ、ソレ上下だと、那麼立派な品を惜氣なく拵へて呉れる方だから、其人がれ前さんとの關係を新聞に出されてそれがために寄席へ來なくなつたと云へば張合もなくなる、樂も拔るもので、決して落膽するのも無理とは思はない、當然だとは思ふけれど、しかしそれは縫さんがまだ若いから、一圖に思ひ込むから落膽もすれば、面白くもなくなるので、藝人になつたからには、少し氣を大きく持たなきや、那麼僅な事を苦に病むで快々するやうぢや、初中終苦勞を爲通に爲なきやならないやうになるのよ、何も山田さんが寄席へ來なくなツたからつて、死くなつて了つた理ぢやあるまいし、一時あゝ云ふ新聞が出たために、世間體を憚つて見ゐないまでの事で、どうしてこれ限り來ないで居られるもんか今山田さんが顏を見せないのは、あの人のためなり又れ前さんのためなんだ、何故かなられ前さんがこの正月から寄席へ出るやうになつたのも、原はと云へばれ父樣が惡しいから、何程かづゝでも家の助になりたいと云ふので出る事になつた理でせう、それが案外にも斯麼人氣が出たので、嚴しく言つて居たれ父樣までが、苦しい中から臺まで作へて呉れる樣になつたんだから、實を云へばれ前さんのためには此處暫くが大切な時なんだ。世の中と云ふのも藝が巧いから出るのではあるけれど大抵は自分が何うして見やう、斯うして見やうと云ふ客が人氣を立てゝ呉れるんだから、あゝ云ふ新聞が出ると、折角出て來た人氣も落ちて了ふのが常例だから私も内々大變に心配したのよ。だけれども、今の所では幸いまだそれがために奈何斯うと、人氣に障つた樣子もないから此處でウンと藝に身を入れなきや肝心のれ父樣に樂をさせる理にも行かず、自分の名前を揚げる事も能ないのに、山田さんの事から氣を腐らして、晴の高座に出てまで快々思ふやうでは爲方がないぢやないかね、れ前さんがこれ限で藝人を舍して了う氣なら、何にも云はないけれど、義太夫語で立つて行く意なら、甚麼面白くない事があらうとも、それがために高座の語物に氣を入れないでは全く困るのよ、我々は高座に出たら、それこそ武士が戰場に出たも同じ事なんだから、女義太夫の名人にならうと思ふなら、どうか私の言ふ事を聞入て、一生懸命藝道を研いて呉れ、すると私も自分の弟子に自分より上手な弟子が出たと云へば手柄になる、れ父樣も樂が出來て、三方四方が宜くなるんだからね。」

「能く分りました、これからは一生懸命稽古を勵みますから、どうぞ安心して下さいまし」

愚なる鎭定策

教育倶樂部

皇太子の歴訪

▲酒饌を賜ふ

間島問題

參與官會議

鐵道敷地交換會

仁川避病院建築に就て

仁川商業學校の成行

第一銀行の辯明

平南鐵道の運命

京義線として敷設さるべく決定せし平壤鎭南浦間鐵道の件に就て尚ほ聞く處によれば鐵道管理局來年度豫算中臨時部の線路改修費は當初一千萬圓を計上せしも之れが削減の結果七百四十萬圓となりたれば之にては本線改修のみにてギリ〳〵結着といふ有樣にて此内を切詰め以て枝線敷設に着手するが如きは先づ以て六ケしかるべく木浦其他の枝線も之にては敷設の餘裕なし

東大門外の戰鬪

暴徒の首魁を殪す

仁川小學校の終業式

京城の洋服裁縫業

市原總支配人



月光は如何に草木の發育に影響するか

農業や作物や其の他の上に夫の月の光が影響を及ぼすと云ふ考は昔から多くの人々に信ぜられて居たので今日に至るまで種々論せられ未だに決定せぬ點がある例へば西洋の農夫が一般に信ずる所によると四月五月の頃草木の若い芽の出る時分に…

…巴里のコスモス雜誌上に現はれたフランシスール氏の言ふ所によると「以上の如き月の光が草木に影響すると云ふ考へは十八世紀の時代頃から既に學者の注目を惹いたもので路易十八世自身もこの事に付いて夫の有名な天文學者ラプラースに…